

平成 29 年度 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)第 1 回会議要録

- 1 開催日時  
平成 29 年 7 月 4 日(火)午後 2 時 00 分～4 時 00 分
- 2 開催場所  
練馬区役所本庁舎 20 階交流会場
- 3 出席者  
委員長 健康部長  
副委員長 健康部健康推進課長  
委員 坂本委員、市川委員、今給黎委員、橋本委員、荒井委員、増子委員、  
谷口委員、井上委員、粕谷委員、若山委員、赤井委員、木川委員、  
幹事 大泉保健相談所長、都市農業課農業振興係長、環境課地球温暖化対策係員、  
施設給食課学校給食係長、保育課保育所給食担当係長、生活衛生課食品衛  
生担当係長、健康推進課健康づくり係長  
事務局 健康推進課栄養指導担当係 3 名、北保健相談所栄養担当係長、光が丘保健  
相談所栄養担当係長  
欠席委員 戸田委員、内木委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者数 0 名
- 6 配付資料  
資料 1 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)委員名簿  
資料 2 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)幹事名簿  
資料 3 練馬区食育推進ネットワーク会議(1 期～5 期)の活動内容  
資料 4-1 「ちゃんごはん」事業について  
4-2 「ちゃんごはん」事業プレスリリース記事  
資料 5 ねりまの食育応援店事業について  
資料 6 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)活動について(案)  
資料 7 練馬区食育推進ネットワーク会議第 6 期 1 年目スケジュール(案)

7 会議要録

(1) 開会

(委員長)平成 29 年度第 1 回練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)を開催致します。

まず委員の紹介ということで、資料 1 の掲載の名簿の順に一言ずつ簡単に自己紹介を頂きたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

—委員からの自己紹介—

(委員長)ありがとうございます。戸田委員と内木委員につきましては本日所用のため欠席ということでございます。次に区の職員、幹事の紹介をさせていただきます

ます。資料2をご覧ください。

—幹事からの自己紹介—

(委員長) 以上で幹事の紹介を終わらせて頂きます。

次に食育推進ネットワーク会議の委員長を務めさせていただきますので、ご挨拶させていただきます。「食」というのは生活の基本でもありますし、健康の基本でもありますし、人生の最大の楽しみと言ってもいいのではないかと思います。練馬区でどういう形で「食」というものを大事に育てていけばいいのか、ぜひ様々なお知恵を頂きながら皆さんと一緒に考えて、そして実行していくという事も大事だと思っておりますので、ぜひ様々なアイデアを頂ければと思っております。よろしくお願い致します。

(副委員長) この会議はいろいろな方に参加して頂き、大変楽しい会議というふうに伺っております。この2年間皆さんから様々なご意見を伺いながら、ぜひ区の施策の参考にさせていただきたいですし、また、それを実行していきたいと思っております。私も「食」は大変興味があり自分でもたまに作っております。よろしくお願い致します。

(委員長) それでは次第の案件3の第1期から第5期までの活動紹介ということで、資料3・4・5をご用意させて頂いております。これまでどういうふうに運営してきたかということにつきまして事務局からご説明させて頂ければと思います。

(事務局) 資料3、資料4-1、資料4-2、資料5の説明

(委員長) 第1期から第5期までの活動内容についてご説明をさせて頂きましたが、何かご質問、ご意見はございませんか。

(委員) 第1期は「食育実践ハンドブックねりま」を作成したと説明がありましたが、自分が2期の委員になった時にまた同じようなものを作るのではなく、違うものをやりましょうと最初に言わせて頂きました。そしてみんなで協力して色々な情報を盛り込んだ食育実践カレンダーを作りました。また、その次の年に作成したのが食育実践チェックシートです。前に作成したものと全く違うものをこの会議で考えたのでとても大変でした。その後の食育実践ハンドブックが「野菜とれとれ」ですね。1とれとれが70gで、5とれとれで350g野菜をとる、食べようという内容です。これはすばらしいと思います。“とれとれ”は練馬区のオリジナルで、“1とれとれ！5とれとれ！”がわかりやすい。この冊子以降はこの会議で作るのではなく、健康部の栄養士さんが「ちやんとごはん」までの素晴らしい冊子を作りました。これらの冊子はお店のテーブルに置いてありますが、お客さんが未だに『いいですか？これ』って持っていかれたりするので、内容がすばらしいという証明になると思います。以前のカレンダーやチェックシートについてはこの会議で作ったということ

について補足しました。

(委員長) 以前の冊子等については回覧してご覧いただきましょう。どういう変遷を遂げてきたかは委員からお話しいただきましたが、より実践的な内容に変わってきていると思います。次に第6期の活動について事務局の方で案を作ってきておりますので、説明させていただきます。

(事務局) 資料6の説明

(委員長) 今、若い世代、特に20～30歳代への取り組みを、今期の活動ではテーマとさせていただきます、またこれまで検討し、事業として取り組んでいることについても更に広げていくようなご検討を頂きたいということで、3つのテーマを提案させていただきました。

まず皆様に全体的なご意見を聞き、部会は2つに分かれて検討して頂こうと思っております。従来の取組の普及拡大について検討する部会が1つ、それから若い世代の食育、未知の領域にチャレンジするという部会が1つということで、委員の皆様には2つの部会に分かれて頂きたいと思っています。部会について、またご自分の意見や全般的なことについてお考えがあれば、お聞かせ願いたいと思います。

(委員) 今、子どもに携わる仕事をしていますが、児童館で中学生や高校生の食事の仕方をみると、昼食にお菓子を食べている子が多くおります。パンに牛乳ではなく、ジュースと菓子パンを持ってお昼の時間を過ごしています。やはりすごく問題があるなと思います。私はこの世代の子たちは食事が楽しいと思える世代になってほしいと思っています。部会については、若い世代の食育の検討のグループに入りたいと思います。

(委員) 今日のこの若い世代のデータを見て、我が家には当てはまらないと思いました。我が家の子どもたちは20歳代と30歳代ですが、自立してもごはんは自分できちんと作っています。この世代の全員に対し、食育ができていないとは言いきれないと思います。食は家庭からだと思っています。以前赤ちゃんと関わる仕事をしていた、離乳食づくりなど苦しい立場になったときに相談できる場所が必要だと感じました。

(委員) 小学校、中学校では給食でバランスのよい食事を食べ、高校では母の手作りのお弁当を食べることで、バランスよく主食、主菜、副菜がとれていたと思います。大学生になると自立し母のお弁当もひと段落する歳になり、子どもだけで外食を利用する機会も増えて、自分の好きなものだけを食べるという友達も周りにいます。一人暮らしを始めると中食等が目立ってきたと感じています。まだお金で解決できるような年齢ではないので、改めて自分の食生活を見直すという姿勢にはなかなか向いていきません。改めて若い世代にアプローチするのは難しいことではあるなというふうに感想として思いました。

- (委員) 資料6のグラフについての質問です。練馬区は農地面積が広く、直売所も多くあると思いますが、20歳代でこんなに数値が低いのはなぜですか。
- (事務局) 数値が低いことについて理由が分かると私どもも何か取り組めることがあるのではないかと思うのですが、練馬区民は若い方だけではなく全体的に野菜の摂取量が少ないという結果が出ています。
- (委員) では感想を言わせていただきます。20歳になり今年練馬区で成人式に出席しました。その時に頂いたチケットで、練馬区の野菜が買えるブースがあったので練馬区は食育の活動をしているのだなと感じていました。小学校までしか練馬区にはお世話になっていませんが、エコクッキングを受けていたので、練馬区は食育の活動が盛んなのだなということは分かっていました。中学生、高校生の間は練馬区にいなかったので食育のことをすっかり忘れていましたが、今回思い出させて頂きました。私は大学で食育について学んでいるのですが、他の大学の友達は『食育、何〜?』という感じなので、もっと知るきっかけを作ったらいいのではないかなということを一番に思いました。具体的にはやはりSNSとか、よく利用する駅とかのポスター等でアピールすることが、若い世代に伝えるのであれば一番いいのではないかと思います。
- (委員) まず最初に感想ですが、練馬区に長い間住んでいて、これだけの素晴らしい冊子があるということに大変感心しました。昔はご飯とみそ汁を食べということは、一家団欒の中でずっとやってきました。この資料の数値を見ると、国全体に対して20歳代から30歳代の結果が非常に低い訳ですよ。今練馬区には特に20歳代から30歳代の新しい方が引っ越してきて、その方々が一戸建てを買って住むことで、畑がどんどん住宅に変わって無くなってきます。20歳代から30歳代の方で引っ越してきた方は、夫婦でお勤めしている方が多くて、一緒に帰ってきたり、一緒に食事をしたりするのがバラバラになって、この重要な3つの「主食・主菜・副菜」を作ることが無くなってきているのではないかということが1つの原因ですよ。練馬区で小学校から育った方々は、先ほどのお話のように食育については教育をされてきていますよね。私の孫も随分教育されてきています。他の県に比べて練馬区は非常に優遇されていますよね。他の区や県から引っ越してきた方をどうしたらいいか。特に食育というのは、子どもたちが小学校で大変いい教育を受けても、結局大きくなった時に人格形成にも影響する訳ですから、考えていかなくてはいけないと思います。また、追々勉強させて頂きたいと思います。
- (委員) 資料6のデータを見て、若い世代が大変なことになっていて、今どうしたらよいかと頭がパンパンになっています。部会制に分けるというお話でしたが、チャレンジャーなので若い世代の方で取り組んでいきたいなと思います。これから望みのある若い世代の方々に向けて、他府県、他地域から入ってき

た方についてのアプローチはもちろんあると思います。この世代の方は食育の端っこを勉強して育った世代だと思いますが、自分で作って食べるというところにはつながっていない世代とも思います。学校で勉強して頭ではなんとなく食育について分かっていて、バランスが大切だと分かっている。けれど社会に出て独り立ちして、何を作るか、何を選ぶかという部分についてはまだまだ未熟な世代なので、ネットワーク会議としてどのようにアプローチしていくかということが部会でのテーマになると思います。例えば、学校や幼稚園へのアプローチはできるけれど、大学へのアプローチはあまり聞いたことがないので、大学に対しての食育の何らかのアプローチもできるかもしれないですね。あとは練馬区に住んでいて他地域で勤めをされている方々に対しては、やっぱりSNSも含めて練馬区の住民としてのアプローチをしていく。あとは、他地域から来て練馬区にある企業でお勤めの方々に対しては、企業宛に『あなたたちの勤めている従業員、健康ですか?』というアプローチの仕方もできるかもしれない。ネットワーク会議として、どの分野を検討するのか。全部アプローチするのか、まずはその中からチョイスしてアプローチするのかというのは精査すべきかなど。色々なやり方があると思うので楽しみだなという気がしてきました。

(委員)

私どもが育った時というのは、祖父母がいて親がいて一緒に何でもやってきたので、炊事も手伝い、繋がっていくという世界がありました。遊びに出ても群れ遊んでいたもので、上の子が遊び方を教えるし、自然の中で共同で遊ぶと、怪我もするけれど体力的にも恵まれていたという状況がありました。ところが今はおじいさんおばあさんと一緒に住んでいる方は非常に少なく、且つ働き方改革です。人口が減ってきて、お父さんもお母さんも働いていると、子どもにはお金を与えるだけで、そのお金で子どもはスナック菓子を買って食べて、ぶくぶく膨らんじゃって、ということがあると思います。体を使って遊ばない状況もあります。公園に行っても木に登ってはダメだ、野球やってはダメだ、火を使ったらダメだということで。ミツバチを飼っている大学では可愛い子どももいるんですけども、生活力がない子どもが非常に多い。今問題の大学生ないし若い人というのは何にも知らない。それで働き方改革で親は子どもを預けて働きに行く。食の問題については小中学校で給食を食べて救われている。保育園で救われている。けれども家では空白になってしまっている。だから食卓の絵を書かせても、テレビが書いてあって、机の上にパンが一切れとお菓子が乗っているような絵しか描けないという状況があり、そこにどう切り込んでいくかだと思います。大学生に聞いてみると『太るのが嫌だ』と言ってお菓子を少しだけ食事代わりに食べる。頭の中では分かっているけども、コンビニで済ませてしまうという状況があります。健康面、

体力面、栄養面について、学校に行っている時はよくても大人になって外に出たら全然ダメだという状況にどう切り込んでいくかというのが、若者へ切り込んでいくポイントになると思います。大学へ行くのもいいと思いますが、実際には大学生は頭の中では栄養バランスを考えなきゃいけないということは分かっているんです。だけど、実際の生活は『やせたい！やせたい！』って言っていて、こちらが『やせ過ぎじゃないか』って言っても、ダメなんですよね。だから小さい時から小学生はじゃれつき遊びをして精神的にも友達と遊べて、健康も保てるようなことを学校でやっていかないと、食べ物だけやるということだけではダメだ、ということをおっしゃっている先生もいました。学校へ応援団として行くと孤立した子どもがいっぱいいます。『どうしたの？遊んであげようか？』と言って頭をなでてあげると、ニコツとして『おじちゃん遊んで』とまとわりついてきます。これは家庭的には愛情が薄れていて友達もいないという状況です。このような子どもはあちこちにいます。家でお金を渡されて『コンビニで買って食べなさい』と言われている子もいるような、家庭状況がバラバラになっている状況にどう切り込んでいくかがポイントになると思います。

(委員)

私の家の近所でもこの数年で若い世代が引っ越してきて、朝8時位に子どもを保育園に連れて行って、帰ってくるのが夜7時半くらいなんですよね。だからゆっくり食事を楽しむなんていうことはないのだろうなと思っています。朝8時に出ていくまでの1時間以上前には起きてバタバタと支度を急いでいるようで、『早くして～！』みたいな声が、狭い地域ですから聞こえてきます。今働き方改革の話もありましたが、夫婦で働かないと家のローンもあり、子育てのための貯蓄もしくちゃいけないということで一生懸命働いていらっしゃるのだろうけど、とにかく毎日余裕がないようで。日曜日にはゆっくりと食事ができているのかな、なんて思いを馳せているのですが。私も3人子どもがいて、1人はすぐ近くに独立していますが独身なので、食事はどんなふうになっているだろうかと。『(家に) いらっしゃい』と言ってもなかなか忙しくて来られなくて、たまに来て『何か食べさせて』と言われた時はなるべく野菜を多く摂れるように意識します。本人も割と意識をしてくれているのでいいかなと思いますが、日常生活においてはやっぱり外食が中心でしょうから、食べることに限っては心配ですね。男の子だから特に自分で作るなんてことはまずないだろうなと思いますが、近くにいても私に来て欲しいってことは一切なくて、仕事も忙しくしているので、食べることにもうちょっと関心をもって欲しいなと思っています。これから結婚しても今のご近所の状況をみていると『いや、大変だなあ...』と思っているところです。食べることについては、手の込んだものではなくても素材そのものを食べる和

食はやはり素晴らしい、とまっているところです。

(委員) 冊子がこれだけ出ていることを今日改めて知りました。色々な方面で冊子をPRすることは効果があると思います。これらの冊子には出ていないのですが、個人的には和食にはお茶だという思いがありますし、お茶から摂れる栄養もすごくいいと思うので、できれば載せて頂きたいという思いがあります。あと料理を作らない子はずっと作らないと思います。うちの子は自分で食べたいものを自分で作って食べることが結構好きみたいですが、やる子とやらない子とは個人差があるので、冊子を紹介するとしたら簡単にレシピ化して、こうすれば簡単に作れるよとか、とりあえずごはんを炊いておみそ汁だけ飲もう、といったアプローチでやっていくのも一つだと思います。自分のことで考えてみると、結婚した時や子どもができた時が一つの機会であると思います。私は子どもが好き嫌いしないように、自分があまり好きでないものも、子どもの前では食べたりしました。保健所などで出産前のお母さんになるべく簡単でいいからこういう料理を作りましようとか、このような食事をしましよう、とお知らせするのが一つのきっかけになるかなと思います。

(委員) 僕がいつも委員の皆さんの意見を聞かせてほしい、というふうをお願いして素晴らしい意見を頂いています。事務局は皆さんが言ったことを覚えていて、それいつかやろう！ということをする人たちなので、それはすごく偉いと思います。13年前に3つの商店街で水撒きをするという活動をしました。この活動のために東京都の公社で10年間勉強しました。その当時、今の山内副区長が公社の理事長で、僕もかなりかわいがってくださって、去年の3月には区長と一緒にお店に来てくれました。そのときに色々な意見を言わせていただいてそれが形になりました。僕が最初2期で来た時には本庁舎の9階の同じフロアに商工観光課と保健所がありました。本来商業を活性化するにはこの2つが組み合わさって何かやるのが一番商業活性化の鉄則としてあるんですけど、隣り同士なのに完全に別々の組織でした。僕一人の力ではどうすることもできないのでずっとチャンスを待っていました。それでこの会議で「ねりまの食育応援店」ができました。特に「あなたのいちおしのお店」の制度はすごく画期的なものです。商工観光課でやっているねりコレは初めは10個とかだったんですけど、そこからどんどん増えていきました。運営が観光協会になってからは制度が変わって、お店の入れ替えがありました。そこで、ねりコレの中でも素晴らしいお店については、この会議でねりまの食育応援店に入れる可能性を作りました。この会議の話し合いの中で、街の中の豆腐屋さんや昔ながらのおいしいうなぎ屋の香りとか、そういうお店を残したいという意見があり、ねりまの食育応援店の登録内容の一つにしました。僕はお店の立場として、今あるお店、専門店ががんばっているけれどもつぶれか

けているお店も多い。そのお店を何とかしたい、という思いを僕も言わせていただいてこの形になりました。部会のもう1つのテーマについて、僕は娘が3人います。僕の母親は料理を3つしか作れなくて、あとは買ってくるという生活をしていました。僕の妻はちゃんとだしをとったりしてすばらしい家庭です。今はクックパッドとかをその通りにやれば誰でも作れるっていう時代だから、若い人はそれをやるかやらないかの差だと思います。部会については、ねりまの食育応援店の普及についての方で、組織の縦割りをなくしたい、練馬を改革したい、とにかく全体としてよくしたいという思いでやっていきたいと思います。

(委員) 農協というスタンスで物事をしゃべってしまうとほとんど答えみたいな形になってしまうので、一個人の意見だとして皆さん聞いていただけたらと思います。中学校の朝ごはんコンクールについて等話がありましたが、我々は全部知っていなければいけないと思いました。このような会議の中で皆さんの話を全部総合的にまとめるというのは本当に難しいことです。実は直売所に野菜を買いに来てくれている人は、半径600m圏の中の50歳から上の方がほとんどです。そしてそういう方たちでなければ基本料理はしません。ですからなかなか若い人たちに発信するということが難しいです。私どもも若い人たちの意見を取り入れて進めていこうという話になりますと、SNSの話は出てきます。ではどうやってスマートフォンにも反映させて、野菜が買いたってところまで持っていくか。それで今って楽しくないと若い人は見ない。楽しくさせるにはどうすればいいかということ、皆さんからの意見を聞かせてもらった中から、うまく情報発信の起点とさせていただきたいと思っています。今日午前中たまたまこのSNSの関係の会社の方と会っていましたが、どうやったら楽しく作るかっていうのを我々が考えてもなかなかうまくいかない。皆様の意見を入れたりするとおもしろいものが出来上がっていくので、こういう場は非常に大事だと思っています。地元の人がどういうふうにしたいという意見が一番大事だと感じています。具体的にどのようなことをしたら健康に暮らせるかということや、商業の発展について、また農業がどのように残っていけるかということにも結び付けさせていただきたいと思っています。今週末に石神井支店でクッキングフェスタを行います。地場の野菜を使います。有名な方がきて料理を教えてください。親子でなるべく参加をしていただいて、地場産のものでこういう料理ができるのだなということ、見て、食べて、楽しんで帰っていただくというような催しになっていますので、ぜひ皆さん来てください。

(委員) まずは資料6のデータは本当にシビアですね。20歳代については食育を受けている年代のはずです。平成17年から10年経っているわけですね。中



学を卒業して 10 年というと 25 歳。しかも前から家庭科では栄養のバランスについて学んでいますし、保健体育の授業もあります。学校の取組としても民間の企業に声をかける等して色々な方を講師として招いて、食育を行っています。ではこの状況をどうしていくか。これから言うのはあくまでも私の経験ということで聞いてもらいたいのですが、キーワードは一つが共稼ぎ。やっぱり両親が忙しいですね。それから貧困、ネグレクト。これらはやはり子どもの成長に影響してきます。家庭で育ってくるものがあると思います。特に食については、『君たちあと 70 年ぐらいは生きるんだよ、その中でいかに健康に、いかに充実した人生を送るかというベースは体だよ』とよく私も子どもたちに話します。今度学校で行う食育の講演会のときも、そんな話から始めようと思っています。食は子どもたちのこれからの一生に関わるようなことで、しかし若い世代はバランスの悪い食事をとっているという状況を考えると、学校としてもまた一段といろいろな形で子どもたちに働きかけをしていこうと思っています。学校教育というのは、民間企業ではないから収益がいくら上がったから成功だとかっていうことではないですね。何十年後に今いる子どもたちにどれだけの豊かな人生を送れるようにするかが、我々の使命だよと先生方にも話しています。社会の課題ということも考えていかなければいけないのかなというふうに思っております。

(委員長) 皆様から色々なご意見をいただきありがとうございました。6 期につきましては事務局の方で考えたテーマでご検討いただきたいというのはご了承いただいたことよろしいでしょうか。部会については、若い世代の食育の推進の検討のグループではない方も、ねりまの食育応援店の普及について若い世代にどうやってアプローチしていくか、ということも話題になっていくと思いますので、統一して取り入れていただいております。皆さんのご希望を伺った上で、人数のバランスが悪い場合についてはまたご相談させていただければと思っております。では次に事務局から、資料 7 に基づいて今後のスケジュールの説明をさせていただきます。

(事務局) 資料 7 の説明

(委員長) 次回について資料 7 には 9 月と記載がありますが、8 月 31 日に第二回会議として部会会議を開催させていただきたいということでございます。では、最後にその他ということで、学校給食係長から連絡がございます。

(幹事) 配付させていただいております「第 3 次練馬区立小中学校における食育推進計画」についてですが、こちらの計画は第 3 次の前に「第 2 次練馬区立小中学校における食育推進計画」があり、平成 28 年度までの計画でした。そのため昨年度、練馬区立小中学校における食育推進委員会におきまして第 3 次を策定し、平成 29 年 3 月に教育長決定をいたしました。学校栄養士、関係各課

にはすでに冊子を配付させていただいております。またホームページの方にもアップしております。なお今回の計画は33年度までの5か年を予定しております。本日配付しておりますので、ご覧いただければ幸いです。よろしくお願い致します。

(委員長) 2ページのところには食育の目標が挙げられておりますので、このような学校の活動を理解した上で、食育の推進の検討をしていただければということでございます。

(委員) 一つ質問です。部会ですが同じ日に2部会行うということでしょうか。同じ日に開催するということであれば、質問や意見は別の部会の件についてもできるという認識でよろしいでしょうか。

(事務局) 同じ日に同じ部屋でグループに分かれて行います。

(委員長) 2部会には分かれますが、それぞれの意見を聞きたいということであればフレキシブルにやっていただき、あとは全体会議の場でご自分が入っていない方の部会の検討についてもご意見をいただきたいと考えております。それでは次回につきましては8月31日に1905会議室で、時間は2時から4時でございます。ご案内はまた改めてお送りいたしますので、よろしくお願い致します。それでは本日の食育推進ネットワーク会議を閉会させていただきます。誠にありがとうございました。